

本願寺長野別院からの手紙 <春号>

(長野別院・定専寺・善立寺)

本願寺長野別院
〒380-0845 長野市西後町 1653
TEL 026-232-2621 / FAX 026-235-0210
http://www4.hp-ez.com/hp/naganobetsuin



4月を前に、一年を振り返って

早くも1月2月3月が過ぎ、4月を迎えようとしています。今年1年生だった人は2年生になる4月です。



ところで、この一年間は新型コロナウイルスに翻弄され、何もできない一年として過ぎようとしています。しかし、何もできない一年ではありましたが、世の中が大きく変化していることがわかる一年でした。例えば、出社しなくてもいい在宅ワークやオンラインでの会議などがその代表と言えます。また、特に意識の面からは、オリンピックに関連してのあの「女性蔑視」と言える発言が代表的でした。これまでは笑い話です。これをどう考えるのかということですが、

「言わなければいいものを、あんな発言をして」などとテクニクを追求することを考えるのか。「けしからん、あんな発言をして」と非難の側に立つのか。とはいいいながらも自分の中にも、例えば、①車の運転中に前に遅い車があり、それを追いついて運転手を確認したときに女性だったときに何を思うか。②荒れた成人式や、自粛と言われる中で路上でたむろする若者をテレビで見たときに何を思うか。などなど、おそらくあの発言とそれほど違わない考えを持つ自分があることに気付かされます。

ところで、「煩惱具足の凡夫」「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」とお聞かせいただきますが、これは間違っても「開き直り」や「言い訳」の言葉ではありません。また、親鸞聖人のお言葉に「はずべし、いたむべし」とあります。阿弥陀さまの大きなはたらきの中にありながら、本当の自分の姿を振り返ったときの思いと受け取ります。この「はずべし、いたむべし」という思いからどういう生き方が想像できるでしょうか。そこを私たちが「大切」とさせていただく生き方であると思うのです。

何もできなかった一年であったかもしれませんが、様々な気付けられる一年であったと思います。



「お念仏」申す人生

仏さまの名前(阿弥陀如来)を唱えることを念仏と言います。その念仏は「南無阿弥陀仏」と発声します。また、南無阿弥陀仏は「名号」とも言います。ややこしいですね。

名号から考えていきますと、「名」という字は、夕方の「夕」という字と「口」という字が一つになったもの。夕方になると暗くなつてよく見えない。そこで自分の名前を名のり、相手に告げるという意味の字なのです。「号」とは号令の意であつて、大声をあげるということ。ですから、仏様の側から私に向けて、自らの名前を名のっているのが名号なのです。しかも、「南無」が付いていますから、阿弥陀仏を「よりどころ」「たよりに」しなさいとまで告げているのです。

このありようが、かつての人たちが阿弥陀さまのことを「親さま」といって呼ばれたゆえんであります。私たちが親と経験したはずです。まだ赤ちゃんの頃、親の手の中で「お母さんよ」「お父さんよ」、さらにはお母さんのおなかの中にいた頃にも同じように声をかけてもらっていたはず。親はよこびや不安など様々な場面において、我が子最優先の生活の中で、親が我が子に声を呼びかけ続けるのです。そして、言葉がしゃべれるようになったとき、その人を疑うことなく「お母さん」「お父さん」と呼んできたのです。親が親として、我が子に大きな願いを向け、そのための行いを続けてきたからこそ「お母さん」「お父さん」なのでしょう。

さて、振り返って「お母さん」「お父さん」と声に出したとき、どのような感情がわいてきますか。ずいぶん前のことですが、私の父が60才を過ぎて祖父が亡くなった年齢を超えた頃、「これで少し親孝行ができた」と言ったことがありました。勝手な推測ですが、「少しでも親の願いにかなった生き方をしたい」という思いからの発言だったのではないかと。

お念仏申す身にお育ていただいたということ、親子の関係から味わってみました。



私にとってのお墓

お墓は、亡くなった人を埋葬する場所です。ただそれだけでしようか。お墓が私にどのような意味を持っているかを考えてみたいと思います。

みなさんは、お墓の前に立ち、墓石に向かって何をしていますか。静かに手を合わせ、お経を読む人、何も思わない人もいるかもしれません。また、「どう？」「ねえ」「なあ」と亡き方に語りかける人もいます。

そして、家族の近況を報告したり、悩みや愚痴をこぼしたり、人生の大きな決断を相談されたりする人もいます。また、誰かのために助けを求めたりする人もいます。もしかかもしれません。様々な思いの場になっているのが「お墓」という場所であり、自分以外の誰にも話すことができないことを打ち明けられる、そのように安心できる場所のひとつが「お墓」なのです。

そこには、「私」にとって切っても切り離せない大切な人との「つながり」と、間違いなく安心できる「関係」があればこそなのです。その人(達)がいたから「今、私がここにいます」とはつきり言える関係であり、決して呪ったり、崇めたりするような関係ではないのです。「大丈夫」「よく頑張っている」と、精一杯生き抜くことができるよう、大きく包み込む「願い」のはたらきでつながっているのです。

お墓の前で、様々な思いを抱き、両手が合わさるのには、私たちの日常で発生する様々な出来事や思いのなかにあつて、大きなはたらきによる「安心」に包まれるがゆえに、「おかげさま」と両手が合わさるといいたくのです。ですから、お墓は亡くなった人のためのものであるのと同時に、それ以上に残された「私」のためにある場所であり、それを「仏縁の場」といいたくのです。



ペットのお葬式

先日、寒い日に、ずっと飼ってきた白い犬が亡くなり、悲しさの中に別院に電話をされて、お経をあげて欲しいと依頼があったようです。職員は迷わず、寄せてもらい、「一緒に「讃仏偈」をおつとめして、白い犬の死を悼んだそうです。

白い犬の晩年は、目が不自由になりながらも家族の一員として、声をかけてもらいながらの生涯だったようです。同じいのちあるものとして、ましてや家族同然であつたものとの別れは、悲しみ大きいものでしかありません。仏さまの「十方衆生」と呼びかけられる大きな願いをお聞かせいただきながら、悲しみにより添えるお寺でありたいと思います。

お晨朝のすすめ

長野別院では毎朝「朝のおつとめ(お晨朝)」を午前7時30分からお勤めしています。鐘が鳴つて、合掌礼拝。正信偈とご和讃、御文章(と一語法話)が主な内容で、約30分間です。おつとめ用の本は貸出がありますので、お念珠があれば大丈夫です。

お待ちしております。

仏事あれこれ

年忌法要や祥月命日、月忌などのお参り、随時受け付けています。お寺の本堂でもご家庭のお仏壇でもお参りいたします。

また、仏前結婚式も受け付けています。お寺の本堂、ホテルでも可能です。また、服装は和装・洋装を問いません。希望をかたちにいたしました。

その他、仏事に関するあれこれ、誰かに聞いてもらいたいこと、お聞きします。

どうぞお問い合わせください。



浄土真宗本願寺派 本願寺長野別院

輪番 齋藤英明





春号 本願寺長野別院からお知らせ

(長野別院・定専寺・善立寺)

本願寺長野別院
〒380-0845 長野市西後町 1653
TEL 026-232-2621 / FAX 026-235-0210
http://www4.hp-ez.com/hp/naganobetsuin



長野別院 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)

重点プロジェクト☆実践目標☆

◇貧困の克服に向けて ~Dana for World Peace~ — 子どもたちを育むために —

本堂、事務所入口に募金箱を設置しています。各地での「子ども食堂」などへの助成金とさせていただきます。ご協力ください。

◇濁世に生きる — 立教開宗の願いを聞く —

親鸞聖人 52 歳のとき『教行信証』の一応の成立をもって浄土真宗のはじまり(立教開宗)としています。今からおおよそ 800 年前のことです。

現代を生きる私たちは、親鸞聖人の『教行信証』ご執筆にあたっての境遇や時代背景に思いをいたし、仏教徒・念仏者としての歩みを確かなものとしたしたいと思います。

春季彼岸会

(20日、物故者追悼法要・永代経法要併修)

3月19日(金)〜21日(日)

19日 講師 嶋倉 崇雄 師(須坂市 圓長寺)

20日 講師 齋藤 英明 輪番

21日 講師 山崎 慶雅 師(長野市 西光寺)

※いずれも午後1時30分から

御命日法要・常例法座

4月16日(金)・17日(土)

講師 天野 真隆 師(兵庫県揖保郡太子町 善導寺)

5月16日(日)・17日(月)

講師 横内 教順 師(東京都文京区 称名寺)

6月16日(水)・17日(木)

講師 結城 道哉 師(三重県四日市市 浄蓮寺)

※いずれも午後1時30分から

宗祖降誕会 (子どもの集い) ※予定

5月22日(土) 午前10時より

お晨朝(朝のおとめ)

※毎朝7時30分から



長野別院創立100周年に向けて

親鸞聖人が誕生されてもうじき850年、浄土真宗という教えが成立して800年を迎えようとしています。その歴史の中で今から100年前、長野の地において浄土真宗の教化伝道の中心道場として本願寺長野別院が置かれました。長い歴史のなかで、その時代を生きる人にとって生きる支えとなる教えであったからこそ、今日に伝えられてきたのです。同じように浄土真宗のみ教えとその心を、これからの歴史の中に伝え続けるための事業を記します。

◆二〇二四(令和6)年10月、記念法要

二〇二四(令和6)年10月26日(土)・27日(日)に「二門主様御親修にて勤修予定」。

別院の創立百周年は、二〇二五(令和7)年にあたりますが、前の創立50周年の折も親鸞聖人御誕生800年・立教開宗750年に併せて、一九八四(昭和49)年、50周年の1年前にあたる年に御門主をお迎えして50周年記念法要をお勤めしています。これにならって、長野教区105ヶ寺と共に記念法要を令和6年10月にお勤めいたす予定です。

◆本堂耐震診断実施

浄土真宗の教化伝道の中心道場として、み教えを将来に残すための事業の一環として行うものです。

本堂横のトイレを改修するにしても、あるいは本堂入口がある2階へのアクセスを検討するにしても、50年前に建てられた本堂の現状がどうかであるのか。その点も含めて耐震診断を行うことになりました。実施業者は、役員・参与会を経て北野建設株式会社に決まり、本年3月下旬より約4カ月かけての予定です。なお、耐震診断にかかる費用は別院会計から捻出して実施いたします。



◆合葬墓の改修・納骨堂の活用

現在、無縁となった墓石を積み重ねての合葬墓が境内墓地の一角にあります。これを解体し、新たに現代の様式に応じた合葬墓に改築予定です。併せて、昨今の傾向としてペットと生活を共にされる方も多いことから、ペットの納骨所も近くに設置を検討しています。将来「お墓をみてくれる者がいなくなる」などご相談が続いています。そのような場合に、お寺はずっと残っていくものであり、そのために可能な限りお寺を整備しつつ維持されています。合葬墓の利用が考えられようかと思えます。



◆墓地参拝通路補修・水場新設計画

また、お墓を有されない方や諸事情でお骨を一時的に預けなければならぬ方々のために、期間を設定しての一時預かり(納骨堂を利用)も受け付けます。一時預かりを経て、合葬墓への埋葬も可能ですのでご参考にしてください。

できるだけ足もとを安心して参拝できるように、主だった通路の修復を行います。ただ、一度にすべてを修復することは経費的に不可能ですので、数年を要して順次実施して参ります。そのための経費的工面として、墓地管理費の値上げにご理解ください。(一律2千円から4千円に変更)なお、墓地管理費は墓地通路整備・清掃費用とさせていただきます。また、4月以降、少しずつ墓地の通路を補修してきれいにしていきたいと思います。また、お盆までには水場も本堂下に増設する予定です。



※墓地使用状況調査によって空きが生じていますので、墓地をお求めの方は「一報ください」。

※詳細についてはお問い合わせください。ご案内させていただきます。

◇◇空き状況の一例◇◇



最近の風景



最近のこと、中央通りから別院境内に続く通路沿いにあった家屋が解体され、眺めが一変しました。現在は更地への作業が続いており、有料駐車場が延長されて広くなるようです。何も建物が建たないことを願うばかりです。

墓地の掃除で一言

お彼岸を前に墓地の通路を掃除しました。まるで迷路のようです。いたるところに昔からの石が残っていて凸凹状態です。また、ある地点を中心にタバコの吸い殻がたくさん落ちていました。あつてはならないことです。さらに、境内がネコの通り道のようなです。その対策をはじめました。皆さまには、お供え物などご注意ください。

お寺の本堂でお葬儀を

大切な人との別れは、予定することなく突然迎えるなければならないことがあります。突然の出来事に寄り添えるお寺でありたいと思っています。すでに備えてあるお寺の道具を使うことで、ある程度の荘厳(お飾り)が整えられ、お葬儀は執行できるのです。お寺の本堂がお葬儀で使えることを知っておいてください。